

◆感謝状贈呈〔体育会活動の発展にご尽力された体育会会長及び部長に対し、退任にあたりその功績をたたえ感謝の意を表する〕

〔体育会前部長〕

吉田 寿夫 様 （スキー競技部 在任期間:2020年12月1日～2024年11月30日）

◆辰馬杯〔OBOGの中から顕著な働きのあった者に与えられる〕



寺田 利治 （航空部・1971年法学部卒）

2010年に航空部新月会（OBOG会）会長に就任され、一昨年までの13年間に亘り会長として航空部の支援に尽力されました。13年の在籍期間において、三田格納庫の三田キャンパス内への移転・新設、新機体2機の導入に指導力を発揮し、航空部の発展に大いに寄与されました。特に、新機体の2機目は1機目の事故・大破を乗り越え再導入を達成したものであり、交渉・調整力があってこそその賜物であります。

◆木村杯〔現役及び指導者の中から顕著な働きのあった者に与えられる〕



小川 将信 （硬式野球部・2025年法学部卒）

主将として200名を超える部員の活動を支え、2024年に65年ぶりのリーグ春秋連覇を果たしました。部内の下位グループで練習を積んだ自身の経験から、全部員の意識統一を図るべく指導力を発揮し、応援されるチームを目指して、毎日の清掃活動や部員全員による献血などグラウンド外の社会貢献活動にも尽力されました。まさに、「NOBLE STUBBORNNESS」「Mastery for Service」の実践者であります。

◆米田杯〔OBOGの中からK.G.A.A.の活動に関して顕著な働きのあった者に与えられる〕



白石 博一 （スケート部・1972年商学部卒）

卒業間もなくスケート部フィギュア部門のコーチに就任されました。1980年に同部門の監督、2005年スケート部総監督、更に2010年にはスケート部のOB会「上ヶ原スケート倶楽部」の副会長、2015年同会長に就任され、現在は相談役として活躍されています。また、2012年にK.G.A.A.の副幹事長、2016年から2年間同副会長を歴任されており、現在は「関西学院同窓会大阪支部」においても大活躍されています。卓越した指導力と行動力、優しい性格で周りから慕われ、スケート部のみならず「上ヶ原スケート倶楽部」、K.G.A.A.にとっても欠くことの出来ない存在となっております。

◆勇者杯〔昭和38年卒業者の推薦〕



ハンドボール部

関西学生リーグ戦で、まとまりのある攻守と粘りで、強豪大阪体育大学を破って54年ぶりの優勝を勝ち取りました。地道なリクルート活動と他大学出身者を監督に招くといった改革が勝利への原動力となりました。 かつて、6年続いて全国制覇を成し遂げた名門復活への第1歩ともなる、貴重な優勝でありました。

◆躍々会表彰〔昭和47年卒業者の推薦〕



ボート部

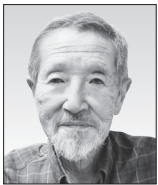
第51回全日本大学ローイング選手権大会オックスフォード盾レガッタにおいて、女子ダブルスカルの西田雅・水本はな、男子シングルスカルの西村望が歴代初のアベック8位入賞を果たしました。創部130年の歴史を塗り替える快挙であり、永きに亘り低迷していたボート部の飛躍を期待いたします。

◆功労賞



的場 春樹 （航空部・1971年法学部卒）

現役時代は主務を担い部内外をまとめ、航空部の発展に大いに貢献されました。卒業後は航空部新月会（OBOG会）において会員との繋がりをより強固にし、「新月会」を隆盛へと導きました。さらに、現役部員が極端に減少した際には、積極的に現役部員と関わりを深め支援を強化し、2010年には全国大会で6位入賞という結果をもたらしました。航空部への貢献は図りしれないものがあります。



松宮 弘 （陸上ホッケー部・1968年商学部卒）

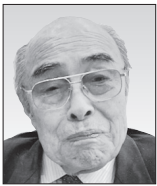
現役時代はオフェンスの要として活躍され、常に関西1部リーグ上位の成績を上げる活躍をされました。卒業後、日本ホッケー協会技術委員長を長年務められ、日本のホッケー普及に貢献されました。近年は陸上ホッケー部女子部のヘッドコーチに携わり、全日本女子学生の上位を目指す熱烈な指導をされています。

◆功労賞



松下 政明 （自動車部・1976年商学部卒）

永年に亘り自動車部OGB会幹事長を務め、自動車部、自動車部OGB会の発展に寄与し、またK.G.A.A.の活動にも積極的に協力されました。また、幹事長を辞した後はOGB会副会長に就き会長の補佐を務め、特に自動車部創部90周年の記念行事に尽力され成功に導かれました。



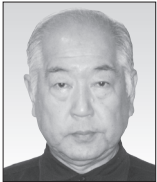
西口 久士 （弓道部・1958年経済学部卒）（物故者）

1917年に原田の森で創部された弓道部は第二次世界大戦で活動の中断を余儀なくされましたが、1955年に20数名の有志を集い再出発を遂げました。その際に、有志の一員として部の復興にご尽力され、また翌年の全国大会にも出場し大活躍をされました。卒業後もOBOG会の幹部を歴任され、現役を物心両面で支え続けられました。その人柄で、幅広い世代のOBOGから慕われておりましたが、昨年8月に残念ながら天寿を全うされました。



金礪 正和 （重量部・1976年商学部卒）

2019年から4年間にわたり関西学院大学体育会重量挙部新月会会長を務め、この間、現役・OB間の密接なコミュニケーションの強化により、現役支援を強力に推進されました。また、当会東京支部の組織化、拡充を図りK.G.A.A.東京支部への積極的参加を行い、部組織の強化と発展に貢献されています。



小林 恭裕 （射撃部・1980年法学部卒）

現役時代、公式試合で優勝7回、準優勝4回を誇り射撃部活躍の原動力となりました。特筆すべきは3年時に学生選抜として日比海外親善試合に遠征、さらに4年時にはインカレ準優勝、兵庫県からスポーツ賞を、体育会功労賞を受賞するなど数々の功績を残されました。卒業後は主に関東に在住し、関東でのクラブ合宿、インカレ等に積極的に出向き後進の指導など物心両面でOBG会と現役を支えて頂きました。



宮崎 洋光 （ワンダーフォーゲル部・1967年経済学部卒）（物故者）

2013年から2022年の9年間体育会ワンダーフォーゲル部OB・OG会長をつとめられました。この間、2020年4月からコロナウィルス感染拡大に伴い、大幅な行動制限が実施され、ワンダーフォーゲル部の活動が実質的に不可能となり、部の存続が危ぶまれる事態となりました。しかしながら、活動ができない期間、OB・OG会長として公私にわたり現役部員を積極的に支援され、その結果、現在はコロナ前と同じレベルの活動を行い、海外遠征も視野に入れた活動も可能となっております。



飛垣 美香 （洋弓部・1993年文学部卒）

2017年より7年間、他大学ではまだ試みられていない女子コーチを務められました。その間、毎年個別面談を行うなど、部員ひとりひとりと向き合い、技術面だけでなく様々な事案を通して、チームビルディングを心がけました。更に勧誘活動についても指導し、今では部員100人を超え、彼女の尽力もあり未経験者の多い部でありながら、3年連続王座決定戦（全国大会）に出場するまでの部に成長しました。現在は一般市民へのアーチェリースクール講師や、新たに関西学連OBOG会の役員に就任するなど、大学の枠を超えた活動をされています。



紅林 健 （カヌー部・1973年商学部卒）

昭和46年・47年インカレ団体全国制覇の原動力として活躍されました。個人でもK-1（1人乗り）1,000mとK-2（2人乗り）1,000mの2種目で連覇されており、当時セレクション組の多かった関東勢をして「関学恐るべし」と言わしめました。その間、オリンピック代表候補として全日本合宿に参加しつつ、後進の育成にも尽力され、後の日本代表選手を育てられました。この様に、強いカヌー部を復活させた功績は、まことに大きいものがあります。



黒岩真一郎 （合気道部・1990年社会学部卒）

2013年コーチ就任以降、毎週土曜日に加え合宿での実地技術指導、昇級昇段審査会での審査や学生大会での審判員を担うなど、学内にとどまらず学外においても尽力されています。また、全日本学生競技大会では団体・個人・男女合計15回の優勝を数え、極めて優秀な成績を維持されています。毎年欧州の合気道師範との稽古会や希望者による欧州遠征に帯同するなど、学生の視野を広げることに努められています。



中島 輝久 （ラクロス部・1999年法学部卒）

永年に亘り、OBG会長として部を支え、特に男子ラクロス部のKGAD加盟に尽力されました。また、学生時代には主務として体育会準加盟を実現し、正式加盟への道を切り開かれました。その献身的な貢献は、部の発展と後進の成長に大きく寄与されています。